



誰もが何度も、
やり直せる社会はつくれる。

 Homedoor
ホームレス状態を生み出さない日本に



 Homedoor

ホームレス状態を生み出さない日本に

認定NPO法人 Homedoor
Challenge Document 2017
(2017年度年次報告書)

〒531-0074 大阪市北区本庄東1-9-14

Tel. 06-6147-7018
info@homedoor.org

[公式サイト] www.homedoor.org

[Facebook] NPO法人Homedoor

[twitter] @Homudokun

事務所に来るみなさんに聞いてみました。

Q.

ホームレス状態のとき、
何がつらかったですか？

睡眠時間が確保できなくて辛かった。

寝床にいたずらされたり、物を盗まれたりもするから、
安心して眠ることができなかつた。

初めて野宿した日、どこで寝ていいかわからなかつた。
公園にある公衆トイレで、朝が来るのを待ちました。
野宿は数日だけだつたけど、もう二度としたくないです。

A.

冬に野宿をしていたとき。

「こんなに寒い思いをするくらいなら、もうこの世から
いなくなつてもいいかな」って、何度も思つた。



朝倉さん



宇野さん



関口さん

誰もが何度も、やり直せる社会をつくりたい。

誰もが何度も、やり直せる社会をつくりたい。

それは代表が14歳の時に願ったこと。

19歳で団体を立ち上げて8年。

設立当時は想像もできなかつた数の方々に
共感と協力をいただけるようになりました。

17歳の時に描いた「夢の施設」づくりにも
ついに着手できた1年でした。

誰もが何度も、やり直せる社会はつくれる。

「願い」が「確信」に変わった1年でもありました。



Contents

01 事務所に来るみなさんに聞いてみました。
**ホームレス状態のとき、
何がつらかったですか？**



07 6つのチャレンジ ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造づくりに向けて

07 Challenge 01 届ける

「来所なし」の相談が初めて半数を上回る／AIとの新たな取り組み

09 Challenge 02 選択肢を広げる

「ホームレス状態の一歩手前」からのSOS／「自分らしい生活」を選べるということ

13 Challenge 03 “暮らし”を支える

日中ゆっくりと過ごせる場所があるということ／ボランティアチームでパソコン教室を開講

15 Challenge 04 “働く”を支える

働きながら貯金することの難しさ／「仲間」だから助け合える

19 Challenge 05 再出発に寄り添う

なぜひとりでは再出発しづらいのか

21 Challenge 06 伝える

知ることが問題解決の一歩めになる／地域とのつながりづくりや交流も活発に

22 【ホムドっ子通信】2017年度版

2017年度の主なニュースをこのページにぎゅっと凝縮！

23 Challenge Background チャレンジの背景にあるもの

応援してくださる方々の声／企業さまとの連携事例
これまでの主な受賞歴／支えてくださった企業さま・団体さま一覧

25 関係者に聞いた、Homedoorのこと

25 団体の規模や組織概要／これまでの道のり
26 目指す支援の全体像 27 財務報告 28 達成したい2018年度のチャレンジ

29 2018年6月完成
アンドセンター特別大公開！

31 **誰もが何度もやり直せる社会をつくりたい。
実現するには、あなたの力が必要です。**

33 事務所に来るみなさんに聞いてみました。
Homedoorに会って、何が変わりましたか？

「とりあえず、あそこに行けばなんとかなる」
そんな場所がこの日本でたったひとつでもあれば
ホームレス問題、解決できるんじゃないかな。

おっちゃんたちがゆっくり寝泊まりできて
どんな人でも働ける場所があって、栄養のあるものが食べられる。
そんな施設をつくることが、私の夢になりました。

19歳で Homedoar を設立してから 8 年。
ひとつひとつ事業を立ち上げ、
路上脱出に必要な機能を用意してきました。

なんと 2017 年には 289 名の新たな相談がありました。
中には普通列車を乗り継ぎながら
地方から Homedoar を目指して来た人もいました。

少しずつではありますが、
「あそこに行けばなんとかなる」
そう思ってもらえる場所ができつつあると思います。

そんな私たちのチャレンジドキュメント
ご笑覧ください。

認定NPO法人Homedoor 理事長 川口 加奈

14歳でホームレス問題に出会い、ホームレス襲撃事件の根絶をめざし、炊出しや100人ワークショップなどの活動を開始。19歳で Homedoar を設立。世界経済フォーラム（通称・ダボス会議）の Global Shapers や、ウーマン・オブ・ザ・イヤー 2013 若手リーダー部門、Google インパクトチャレンジグランプリにも選出される。1991年大阪生まれ、大阪育ち。



届け
る

Staff column

最初は、なんて言ってお弁当を渡せばいいんだろうと悩みました。物をあげるという行為が上から目線のようで、でも実際に毎日何も食べていない人もいて…。すごく葛藤がありました。

何回か夜回りに参加して、「この間お弁当を受け取ってくれた人が事務所に来てくれたよ」という話を聞くことが増えました。食べ物を渡すだけでなく、届けたいメッセージもしっかり伝わっていたのだと思うようになりました。

相談ボランティア・光延佐知子

巡回相談の仕事をしながら、
Homedoorで相談対応やアウトリーチ活動で大活躍！



相談ボランティアとは、Homedoorが実施する全5回の養成講座に参加し、試験に合格すると登録できる相談対応専門のボランティアです。

AI(1)との新たな取り組み
「AIの進歩によって、人の仕事が奪われてしまうのではないか?」このような意見が聞かれることが増えてきました。そこで『AIが人間の仕事を生み出すサポートを取り組む』という全く新しいプロジェクトを行っていきます。

当法人では、以前から相談者向け

AICOは元々マスマディア向けのコピー作成を想定しており、今回のようなネット広告は初めての試みだったのですが、想定以上の結果が出ており、担当者としても驚いています。今までの実施の結果をもとに、更に精度を高めていき、一層の就業支援にご協力していくよう努めてまいります。

株式会社電通
コミュニケーションデザイナー
岸本和也さん



が人の命や尊厳を守ることができる社会になることを願っています。

出会った人の声

ボスターを見て
来所相談をした
宇野さん(40代)



自分一人の力じゃどうしようもないと思っていましたとき、ネットカフェのバナーを見つけ、役所で交通費を借りて Homedoarへ。一緒に手続きをしてもらって、家を借りることができますようになりました。毎日ご飯を食べられるようになり、仕事も見つかりました。絶対に今の生活を手放したくないです。

夜回りで出会った
関口さん(60代)



11月に、空き缶集めをしていたときに声をかけてもらいました。お弁当をもらつたあと、別の日にまたま事務所の近くを通って、仕事があることも教えてもらいました。収入が増え、3ヶ月くらいで空き缶集めの仕事をやめることができた。



「来所なし」の相談が 初めて半数を上回る

2017年度は、来所せず電話またはメールのみで相談した人が52%で、初めて「来所あり」を上回りました。相談者の年代別に「当法人を知ったきっかけ」を見ると、20代では75%、30代と40代もそれぞれ半数以上が、「インターネット」と回答しました。

お金がなく、頼れる家族や知人もまりにいないとき、インターネットが社会とつながる最後の命綱になります。今後も公衆Wi-Fiのある場所など、困窮者の目につきやすいところに情報を載せるなど、より多くの人につながりを「届ける」活動を行っていきます。

巡回活動で
出会った延べ人数
長期間野宿している人はお弁当を渡すことを通じて、関係性をゆっくり築くことを大切にしています。

巡回活動で
出会った延べ人数
長期間野宿している人はお弁当を渡すことを通じて、関係性をゆっくり築くことを大切にしています。



(上)夜回りの様子。2013年から実施しています。3コースに分かれ、野宿をしている人のところを訪ねてまわります。
(下左)配布物には、手書きメッセージ入りのチラシを添えています。
(下右)手作りのお弁当。ご寄付いただいたお米やフードバンクの食品を活用しています。

数字で見る2017年度

巡回活動で
出会った延べ人数

長期間野宿している人はお弁当を渡すことを通じて、関係性をゆっくり築くことを大切にしています。

**26人
1,120人**

全国
142店舗

15秒でわかる2017年度
課題
壁
チャレンジ
結果

若いホームレス状態の人に情報が届けられていない
(高齢でホームレス状態の期間が長い人は減っている)

ネットカフェやファストフード店など店舗で寝泊まりしている人数が把握できていない

・ネットカフェへのバナー広告の掲載
・AIを活用し、インターネット広告を掲載

相談者は大幅に増えたが、協力店舗はまだまだ不足

活動内容



深夜営業店舗の
店頭ポスター



WEB広告
バナー



昼回り
夜回り

(1)AI…人工知能。人間の脳が行っている知的な作業をコンピュータで模倣したソフトウェアやシステム
(2)リストティング広告…Googleなど検索エンジンの検索結果に表示される広告

運営を広げて

Staff column

私は大学教員をする傍ら、社会福祉士の資格を役立てたいとの思いからHomedoorでボランティアの相談員として活動しています。関わりを続けるなか驚かされたのが支援メニューの多さです。

相談援助の内容は、単に社会福祉制度に橋渡しするだけにとどまりません。宿所や食料の提供といった応急支援から、仕事の提供や居場所づくりに至るまで非常に幅が広いです。制度の枠に縛られることなく、利用者のニーズに寄り添いながら柔軟に対応している点が、行政ではないHomedoorの強みだと思います。

相談ボランティア・白波瀬達也

桃山学院大学社会学部准教授として
教壇に立ちながら社会福祉士の資格を生かして
相談ボランティアとして活動中！



相談者の声

居宅生活を開始した
朝倉さん(60代)



相談に来て、仕事をさせてもらえるようになった。特に食生活はぜいたくなかったと思う。前は食べるものの選択肢が炊き出しがなかったけど、「今日は何を食べよう?」って自分で考えて選べる。年金の手続きも手伝ってもらい、家を借りられたのもよかったです。

夜回りで出会った
久保さん(30代)



仕事が急になくなり、野宿を始めたその日にたまたま夜回りで声をかけてもらった。生活に行き詰まっていたので、事務所に相談に行って制度のことを教えてもらった。その後自分で窓口に相談に行って、なんとか住居を構えることができた。情報を教えてもらえて助かった。



相談の様子。相談員や相談ボランティアが中心となり、ひとりひとりの課題にていねいに寄り添います。

「自分らしい生活」を選べるということ

初回の相談内容を見ると、「住むとかしたいけど、どうすればいいのかわかりません。助けてください」といった声が少なくありませんでした。ところも仕事もなく、困っている「何とかしたいけど、どうすればいいのかわかりません。助けてください」とか、「自分らしい生活」を選べること

支援内容の一例

生活面のサポート

- ・シェルターの提供
- ・食料や衣服などの生活物品の提供
- ・公的制度（生活保護等）の申請同行
- ・住居探しのお手伝い

就労面のサポート

- ・仕事や内職の提供
- ・就職先支援

まずはゆっくり過ごすことのできる住まいを確保することが、ホームレス状態脱出の近道です。しかし、そのような状態でアパートを借りるのはひとりでは難しく、生活保護を利用したくてもまずは施設への入所を勧められることが少なくありません。自分らしい生活を選べるよう、サポートしていくことの大切さを実感しました。

「ホームレス状態の一歩手前」からのSOS

初回面談において相談者の状況を聞き取っているとき、驚くのが生活のひつ迫具合です。2017年度の相談者のうち、所持金が1万円を切っていた人は80%で、「0円」と答えた方が15.6%含まれていました。さらに、半数近くの人が携帯電話の使えない状況にいました。

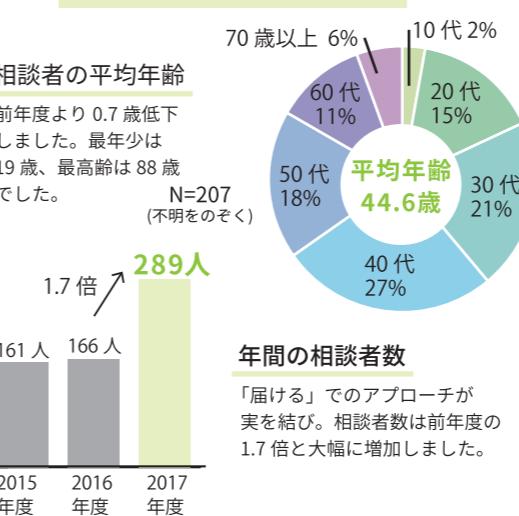
路上生活をしている人だけではなく、居宅生活をしている人からの相談も多くありました。「働いているが、給料日までの生活ができない」「家はあるけどお金がなくなり、何も食べていない」といったSOSに対し、食事を提供したり数日分の食料を送付することもありました。障害などがあり慢性的に金銭管理が難しいと思われる場合は、公的な金銭管理サービスにつなぐなどのサポートを行いました。

た。住まいも仕事も携帯電話もなく、所持金が尽きそうなときに、これら先の「自分らしい生活」をゆっくり考えて選ぶのは、かなり難しいことです。

2017年度は相談後、34人がアパートでの居宅生活を開始できました。そのうち26人は生活保護を利用し、8人は年金や就労収入で生計を立てています。

まずはゆっくり過ごすことのできる住まいを確保することが、ホームレス状態脱出の近道です。しかし、そのような状態でアパートを借りるのはひとりでは難しく、生活保護を利用したくてもまずは施設への入所を勧められすることが少なくありません。自分らしい生活を選べるよう、サポートしていくことの大切さを実感しました。

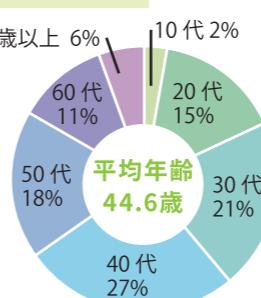
数字で見る2017年度



年間の相談者数

「届ける」でのアプローチが実を結び。相談者数は前年度の1.7倍と大幅に増加しました。

15秒でわかる2017年度



相談時に住居がない人への選択肢が少なかった

行政施設は利用時間や場所などが限られている

冬募金を実施し、緊急シェルターを設置

多くの人に宿泊場所を提供でき、シェルターの必要性を再認識できた

活動内容



初回面談



シェルターの提供



他機関との連携

初めての冬募金を活用し、初のシェルター設置へ。

目標を大きく上回りました。

寒い冬の夜に望まない野宿を強いられる人を生まないよう、緊急シェルターを設置しました。運営費用を集めるために、冬募金を実施。集めた寄付を使い、布団や生活家電を購入し運営しました。

相談来所が週末になったときなどは、行政の宿泊施設が利用できないことがあります。運よく利用できたとしても、ほとんどの施設は相部屋のため、知らない人と何日も一緒に過ごさなければなりません。

制度を利用したくても利用できない困窮者に一時的な住まいを提供した結果、望まない野宿を防ぐことができました。

「夜寝られる場所もなくて、ずっと歩いていたんです。」

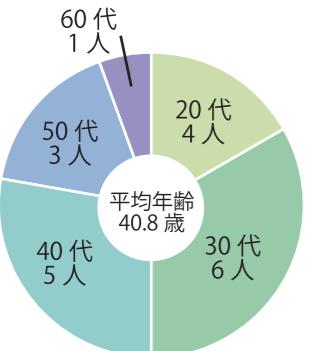


気持ちも体もリフレッシュしてもらえるよう、宿泊者には新品の衣服や肌着などを渡しています。
外で寝るのが怖くて、夜どおし歩いていた人もいました。ゆっくり寝られる場所の必要性を改めて感じました。

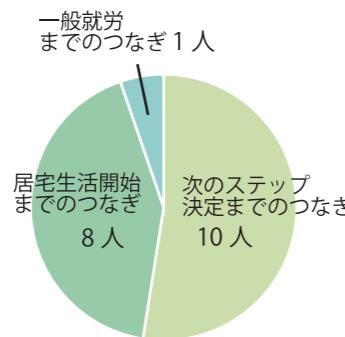


気持ちも体もリフレッシュしてもらえるよう、宿泊者には新品の衣服や肌着などを渡しています。

シェルターの稼働状況



年代別宿泊者数



利用の理由



3ヶ月で19人が
50泊しました

12月下旬よりシェルター提供を開始しました。宿泊者の多くは、もともと大阪府外で住み込みの仕事に就いていましたが、体調不良などの理由で仕事を住まいを同時に失っていました。仕事を探すために大阪へ来たものの、住所がないためなかなか見つからず、ネットカフェなどで寝泊まりをしているうちに所持金が尽きて相談に至っていました。

利用の理由は、アパート入居や行政制度の利用、新しい仕事の開始までのつなぎのために利用した人が9人。残りの10人は、次のステップが相談時に決まり、ゆっくり考える間しぶりにゆっくり安心して寝ることができる、「今後についてじっくり考えられる場所提供できることを実感しました。

宿泊した人の声

泊まってみて、安心できてゆっくり自分のことを考えられる場所の必要性を感じました。

住むところがなくネットカフェなどで過ごしていました。ネットカフェに行ったとき、パソコンの画面にHomedoorのバナー広告が貼ってあるのを見て、相談しようと思いました。

当時は、どんな制度や選択肢があるかも知らなかっただし、何をしたらいいのかまったくわかりませんでした。Homedoorで相談して、行政の施設や生活保護などの選択肢があることがわかりました。

その日は金曜日で、週明けまで泊まる場所がなかったので、Homedoorの提供しているシェルターに泊めてもらいました。食事も入浴もしていなかったので、あたたかい布団で寝られてお風呂にも入れて、プライバシーも保って過ごせる場所に、無料で泊めてもらえたことに驚きました。

今は大阪で、アパートを借りて生活保護を利用しながら就職活動をしています。ひとつひとつ自分の生活を整えていく最中です。相談したおかげで、どんな選択肢があるのかを知ることができ、じっくり考えて自分で選択することができました。

手助けがなければ、犯罪に手を染めていたかもしれないし、生きていなかったかもしれません。ホームレス生活は孤独なので、安心できてゆっくり自分のことを考えられる場所が必要だと思います。

次の仕事探しに励む
Tさん(40代)



目標	74万円
結果	115万2010円 達成率155%
期間	2017/12/8～2018/2/8

春うららをまえええ

Staff column

「今日は、いつもより低いわ」

おっちゃんが血圧を測る姿が、よく見られるようになりました。2017年度は、血圧計や体重計、爪切りなどを購入しました。ホームレスの人の健康状態は悪く、医療機関につなぐこともありますが、それだけでは健康の維持は難しいです。

定期的に身体の状態をチェックし、入浴や歯みがきや爪のケアを行い、病気を予防することが大切です。食事や睡眠も含めた、毎日の積み重ねによる健康づくりを、今後もサポートしていきます。

事務局スタッフ・東野菜津子

ボランティアを経て2013年よりスタッフに。
バックオフィス全般を担う。銭湯が大好き。



看護師さんに診てもらえる月に一度の健康相談会も大勢の人気がやってきます。



受講者のやりたいことをボランティアチームがサポートします。

高齢になってからアパートに入つた人は、体力や年齢を考えると仕事をすることが難しく、社会的なつながりを喪失していることが多いです。そのため Homedoor は社会つながるためのドアの役割を果たす必要があります。

インターネットで好きなスポーツの情報を検索したり、地図や経路検索で旅行気分を味わったり、ブログを開設してみたり。個別指導なので、それぞれのレベルや興味に応じて講座内容も決めることができます。

受講者からは、「今まで自己流でやってきた方法より早くできるやり方があることを知れてよかったです。先生に恵まれて楽しくできた」という嬉しい感想をもらっています。

よく遊びに来てくれる人の声

散髪がきっかけで来所した
岡さん(50代)



散髪⁽¹⁾に行きたくて、Homedoorに初めて行きました。半年くらい散髪に行けていなかったから、さっぱりした気持ちになりました。それから事務所に来るようになって、ここが「憩いの場所」になってきたかな。みんながいるから、楽しいです。

5年前に夜回りで出会った
古久保さん(60代)



話ができる仲間や知り合いがいるから、毎日来る。たわいもない話をして、お茶を飲んでたら、ストレスが発散されるような感じがする。家にいても勝手に足が事務所に向っちゃう。行くことが当たり前になっている感じかな。

日中ゆっくりと過ごせる 場所があるということ

ボランティアチームで パソコン教室を開講



みんなで一緒に「いただきます！」月に一度のアンド食堂の様子。手作りのご飯をみんなでお腹いっぱい頬張ります。「ひとりで食べるより、やっぱり美味しいなあ。」なんて声もよく聞こえています。

2017年度の実施イベント一覧

4月	お花見	12月	クリスマス・忘年会
7月	流しうめん	1月	餅つき大会
8月	BBQ・花火	2月	恵方巻き・豆まさ
10月	ハロウィンパーティ		

15秒でわかる2017年度

課題	身体的・精神的・経済的に負担がかからず安心して過ごせる居場所が必要
壁	ギリギリの生活のため、健康管理が後回しになりがち
チャレンジ	健康サポートの開始 パソコン教室開講
結果	健康への意識が向上 パソコン教室を通じてコミュニケーションの場ができ、QOL向上

生活支援メニュー

食料 / 衣服の提供	シャワーブース
散髪(カットモデル)	仮眠スペースの提供
アンド食堂	ホムパソコン教室
看護師による健康相談会	洗濯場所の提供

活動内容



居場所づくり



健康サポート



食堂の実施

(1) 散髪...2016年より理容専門学校の授業の一環でカットモデルをしています。謝礼も支払われる所以、参加者に好評です。

ついに御堂筋で社会実験！

行政との連携事業も開始から、丸4年に。

利用者の利便性向上へ

「ホームレスの人たちの特技を活かして仕事をつくったら、働いてもらいうやすいんじゃない？」

そんな思いから2012年に始まつたHUBchari。新梅田シティ（スカイビル）やアメリカ村、新世界など大阪の観光名所に拠点を増やすことができました。貸出返却を担当するスタッフはいつの間にか外国人が来ても全く物怖じせず、身振り手振りを交えながらコミュニケーションをとれるようになります。

- ハブチャリ
※HUBchari
- 電動自転車でラクラク移動！ 
- HUBchariが解決する問題
- ▶ 生活保護問題・ホームレス問題
 - ・生活保護費 3兆8千億円
 - ・ホームレス数 5,534人
 - ▶ 自転車問題
 - ・放置自転車台数 6.2万台
(2017年度 全国統計)



修理技術向上のため、講習会も開催！



御堂筋チャレンジでの様子。

これまでのノウハウを駆使して、新たな仕事を開拓。

企業との連携で新たな雇用の場を創出

これまでのノウハウを駆使して、新たな仕事を開拓。



自転車を一台ずつ丁寧に扱います。



メモを取りながら作業を進めます。



商業施設にはHUBchariも併設！

Home doorでは、ホームレスの多くの人が自分で自転車を修理しながら廃品回収などをしていることに着目し、自転車に関する仕事づくりに力を入れてきました。HUBchariでは、修理技術が活かされます。行政委託の自転車対策業務では、ホームレス問題とともに大阪で社会問題となっている違法駐輪の解消に挑んできました。これらに加え、2017年は新たに大和リースさまより、商業施設フレンドの駐輪管理業務を受託しました。毎日6時間シフト制の仕事を得意でき、さらに府内3店舗にHUBchariポートも設置していただきました。店舗利用者の自転車を整理するにとどまらず、自転車をシェアするという新たな利用の方を提示し、利便性の向上や駐輪場不足の解消に貢献します。

内職の提供



仕分けの内職の様子。麦ごみなどが入っていないかを目視で確認します。これ以外にも多数の仕事を頂戴し、それぞれの特性に合った内職を提供できました。



誰でもすぐにできる仕事を提供したい

初めて相談に来た人の相談時の所持金を見てみると、1000円を切っている人が46%で、約半数を占めていました。0円の人も1割近く含まれていました。その日の食費や宿泊代すらなく、限界の状態でやって来る人にとっては、すぐにできる仕事があることは大きな助けになります。相談に来たその日からでも收入を得られるよう、内職の仕事を積極的に受注しています。

2017年は楽天堂さまから麦の仕分け、NPO法人D×Pさまから配布物の封入作業の内職をさせていただきました。これにより5名に仕事を提供することができます。引き続き内職を探していますので、ぜひ封入やシール貼りなどの単純作業があれば気軽にお問い合わせください。

行政との連携「自転車対策啓発事業」



二人で協力しながら、業務をこなします。撤去を減らすために貼り紙をします。



取り組みやすい仕事をつくる

まずは、慣れ親しんだ「自転車」に関する仕事から

2014年から開始した放置自転車対策業務。大阪市内の各区から委託を受け、駅前に止まっている放置自転車を整理したり、啓発用紙を貼り付けたりしています。

事業を開始し、丸4年が経過しました。2~3人ひと組での業務のため、しばらく仕事をしていなかった人でも安心して働くことができます。仕事を通じて、自身と同じような環境にいる人と会話ををするきっかけも生まれます。

適度に身体を動かす仕事や、人は、孤立しがちなホームレス状態の人が、人やコミュニティとのつながりを得て意欲を取り戻していく上でも重要な役割を果たします。

舟と登に
寄り添う

Staff column

普段ボランティアとして、新居が決まったおっちゃん達の引っ越しのお手伝い等をさせてもらっています。いろんな方にお会えるので楽しいです。

この時に心がけていることは、荷物を運んで終わりじゃなくて、その後も生活面等で困ったことがあったら、一緒に悩んで、何かお手伝いできるような関係性を築きたいということです。

そういう思いもあって、本当は人見知りなんですが、荷物運びの時には積極的におっちゃんに話しかけるようにしています。

相談ボランティア・細川周史

普段は公務員として勤務しながら、休みの日は相談対応や引っ越しのお手伝いにと大活躍！



次に向かってチャレンジ中の人々の声

アパート暮らしを開始した
松岡さん(40代)



Homedoorで働く中で出会った友人と一緒に今はアパートを借りています。家があると、好きなときに寝ていいし、文句も言わない。お風呂も入りたいときに入れるのがうれしい。今は職業訓練を受けていて、これから就職活動が始まります。

10年以上の野宿生活を経てアパートに入った
田島さん(60代)



1年前は公園で生活していたけど、今は年金と生活保護でアパートを借りています。Homedoorにお世話をねたから、恩返しがしたくて病院がない日は毎日ボランティアに来ています。



お金をおしつづ貯め、アパートに入居したKさん。訪ねると、笑顔で出迎えてくれました。

なぜひとりでは再出発しづらいのか

2017年6月末、相談来所された

Nさん(40代男性)。大学を卒業後、飲食店の正社員として働いていました

が、友人の連帯保証人になつたことを

きっかけに借金をしてしまいます。支

払が困難になり、仕事を辞めて九州の

実家へ。借金は親が返済してくれまし

たが、実家には居づらくなり、来阪し

て友人宅に泊めてもらひながら派遣

の仕事をします。しかし、ずっと居候

するわけにもいかず、友人宅を出て

ネットカフェで寝泊まりし始めまし

た。

その後は日払いの仕事を主にしていましたが、食費や宿泊代がかさみ生활は苦しくなります。携帯電話も止まってしまいました。仕事は電話が必要だったため働くことができなくなり、貯金を切り崩す生活。宿泊代がなくなつてからは、24時間営業の量販店やバスの待合室で夜を過ごしていました。

ネットカフェのパソコンで当法人のことを知り、来所。「制度を使うよりも自分で働いて生活を立て直したい」

その後は日払いの仕事を主にしていましたが、食費や宿泊代がかさみ生활は苦しくなります。携帯電話も止まってしまいました。仕事は電話が必要だったため働くことができなくなり、貯金を切り崩す生活。宿泊代がなくなつてからは、24時間営業の量販店やバスの待合室で夜を過ごしていました。

ネットカフェのパソコンで当法人のことを知り、来所。「制度を使うよりも自分で働いて生活を立て直したい」

Nさんのように、就労自立を果たしたいと思っていても、仕事を探すための携帯電話をつくる段階でつまずいてしまう人は少なくありません。仕事が長続きするように、そして路上や深夜営業店舗で夜を明かす必要がなくなるように、再出発に向けてひとりひとりに寄り添い続けていきます。

(1) モノギフト...全国25店舗のリサイクルショップを持つ株式会社ベストバイとの協働プロジェクト。Homedoorにての個人や企業の方からの寄付物品を買い取っていただき、その売り上げで必要なときに必要な家電を購入させていただく仕組みです。

数字で見る2017年度

34人

8人

2017年度に居宅生活に移行した人

複数の不動産仲介業者と連携し、本人のニーズに寄り添いながら移行へのステップをお手伝いすることができました。

就労によるステップアップをした人

うち3人は、居宅生活に移った後に仕事に就くことができました。住所を得ることが、就労への近道になります。

15秒でわかる2017年度

課題

ホームレス状態だと住居を得ることが難しい

壁

初期費用や保証人をひとりで用意することができない

チャレンジ

困窮者に理解のある不動産仲介業者との関係性をつくる

結果

相談後、スムーズに居宅生活へ移行した人が34人になった

活動内容



引越し・見守り



就労定着



卒業生サポーター



【ホムドッ子通信】2017年総集編

2017年度の主なニュースをこのページにぎゅっと凝縮!

2017 4月 毎年恒例のお花見で1年をスタート!

季節を感じられるイベントとして、毎年恒例となっているお花見を実施しました。残念ながら写真のとおり、桜は満開ではなかったのですが、それぞれの話に花が咲き、思い思いに楽しい時間を過ごすことができました。野宿をしていると季節を煩わしいと感じることも多いですが、楽しい四季の思い出もつくること思っています。



2017 7月 人間力大賞「グランプリ」に!

日本青年会議所(日本JC)が1987年より主催している「人間力大賞」。文化・芸術・福祉・スポーツなどにおいて積極果敢に活動・挑戦している、人間力あふれる若者に贈られる賞で、「青年版国民栄誉賞」とも言われています。

その第31回グランプリを川口が受賞しました。内閣総理大臣奨励賞と参議院議長奨励賞も同時にいただきました。



2017 7月 タイムチケットの寄付先に決定

個人の時間を30分単位で売買できるサービス「タイムチケット」の寄付先に選ばれました。購入していただいたチケットの1~100%が寄付になります。

運営元の株式会社グローバルウェイラボは「個人のはたらく可能性が多様に広がる社会」をビジョンにしており、Homedoorの理念にも通ずるものがあるります。ぜひ気軽にご利用ください。



2017 8月 「新たな未来」をもたらす30の革新に選ばれる

『WIRED』日本版がAudiとともにスタートさせた「WIRED Audi INNOVATION AWARD」にて、未来に向けた革新をもたらした30組に川口が選ばされました。

「その革新は、“未来の日本をつくるのか”」をテーマに、あらゆる分野の挑戦や活躍に光をあて、イノベイションの文化を日本で加速させていくことを目的としています。ミュージシャンの坂本龍一さんなども同時に選ばれました。



2017 11月 HUBchari 御堂筋社会実験開始

御堂筋80周年記念事業「御堂筋チャレンジ」において、HUBchariポートを3か所臨時に設置し、社会実験を行いました。

大阪の大動脈でのHUBchari設置は、非常に感慨深いものがありました。多数のメディアにも取り上げていただき、HUBchariが広く認知されるきっかけになりました。



2017 8月 商業施設の駐輪管理業務を受託開始

株式会社大和リースが運営する商業施設にて、駐輪管理業務を受託しました。

これまでHomedoorでは、シェアサイクルHUBchariの運営や、行政の駐輪対策業務を実施してきました。

今回、民間企業との連携による新たな雇用の場を創出できました。



2017 10月 「大阪ストリートカウント」実施

深夜路上生活者調査を実施しました。スタッフとボランティアで5つのチームに分かれ、大阪市北区全域を自転車と徒歩でまわり調査しました。

今回の調査では、169人の野宿者がいることが確認できました。毎月行っている夜回りでは毎回80人ほどにお会いしますが、まだ半分ほどの人にしかリーチできていないことがわかりました。今後も継続的に調査を実施していきます。



2017 12月 緊急シェルター稼働開始

寝泊まりする場所のない相談者に一時的に宿泊できる場所を提供するため、緊急シェルターを用意しました。

運営に必要な費用や家財、食料は、冬募金をはじめ、みなさまのご寄付によりまかなうことができました。

利用者からは、「炊きたてのご飯を食べられてうれしかった」という声もありました。



2017 12月 活動説明会「ホムセツ!」開始

Homedoorの活動説明会「ホムセツ!」を開始しました。スタッフと当事者のトークセッションが大変好評でした。

今後も毎月、東京や大阪にて活動の説明を行う機会をつくっていき、多くの方にホームレス問題を考えただくきっかけをご提供できればと思っております。



2017年度は年間64回の講演会やワークショップなどを実施しました。学生、ビジネスパーソン、シニアなど、さまざまな人にホームレス問題を知る機会を提供しています。「気づき」を「行動」に変え、継続的に関わっていただけるよう関係性を構築したいと思っています。

また、10月には初の試みとして「大阪ストリートカウント」(深夜路上生活者調査)を行いました。今回は大阪市北区全域を対象に実施した結果、区内だけで169名の野宿者がいることがわかりました。終電後の深夜に調査することで、野宿をしている人の実態を知ることができました。

今後どのようなサポートを用意する必要なのか、改めて考えるきっかけになりました。



近くの専門学校に通う留学生の方々も見学に。企業とNPO 各々の地域貢献のあり方と、連携の形を学んでいただきました。

Homedoorをひとつの地域資源として活用してもらえるよう、今後も地域との関係を大切にしていきます。

来場した方からは、「地域にこのような活動をしている団体があると知らなかっただ」という声も聞かれました。まずは知つていただき、Homedoorをひとつの地域資源として活用してもらえるよう、今後も地域との関係を大切にしていきます。

2017年度の実績

メディア掲載

テレビ朝日(2017.04)
テレメンタリー
「おっちゃん、どないですか?
路上生活者に寄り添う若者たち」

毎日新聞(2017.04)
企業とNPO連携深化

Forbes JAPAN(2017.06)
日本でもできる!
「次世代型寄付先カタログ30」

産経新聞(2017.08)
自転車が関西観光を変える
「穴場回れる」外国人に人気

朝日新聞(2017.10)
困窮者 走りながら支える

NHK(2017.11)
ニュースほっと関西

日本経済新聞(2018.01)
住んでいるように町を走る ほか多数

講演(64回)

ロータリークラブ
青年会議所
ワコール
イオングループ
富士通クオリティ&ウズダム
大阪市企業人権推進協議会
大阪民主医療機関連合会
関西学院大学
京都聖母女学院、羽衣学園高等学校 など



講演を聞いた中高生が自主的に食品を学校で集め、寄付してくれることもあります。

Challenge

06

伝
え
る

地域とのつながりづくりや

交流も活発に

問題解決の一歩めになる

知ることが、



講演
ワークショップ



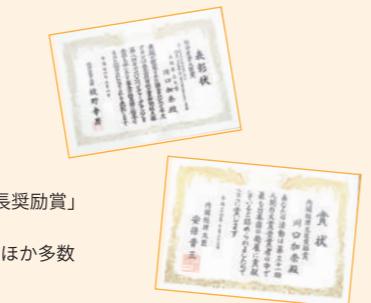
活動内容
調査

Homedoorの活動を支える企業さま・団体さま



これまでの主な受賞歴

2012年 日刊工業新聞社主催 キャンパスベンチャーグランプリ 「グランプリ」「経済産業大臣賞」
 2013年 日経WOMAN ウーマン・オブ・ザ・イヤー2013 「若手リーダー部門」
 2015年 Google インパクトチャレンジ 「グランプリ」
 2016年 関西経済同友会・関西経済連合会主催 関西財界セミナー 「輝く女性賞」
 2017年 青年会議所主催 第31回人間力大賞 「グランプリ」「内閣総理大臣奨励賞」「参議院議員議長奨励賞」
 WIRED Audi INNOVATION AWARD 2017「世界を変え、新たな未来をもたらす30の革新」



ほか多数

企業さまとの連携事例② 株式会社パシフィックネット

パソコンの寄贈により、“ホムパソ教室”が開講できました。

ホームレスの人にとって、パソコンは「使ったことがない。何ができるかもわからない」「やってみたいけど、難しそう」と、あまりなじみのない存在でした。興味のあることから楽しく始め、仕事や生活に役立ててもらえたらしいなあとと思っていたところ、株式会社パシフィックネット様よりリユースのノートパソコンを寄贈していただきました。

3月からはHomedoorを利用する人向けのパソコン教室、その名も“ホムパソ教室”を開講。講師は、社会人ボランティアの方々に担っていただいています。好きなものをインターネットで調べたり、動画やニュースを見たり、ブログを開設したり。受講生たちは、「わあ、面白い」「こんなことができるなんて、知らんかった」と、大喜びです。

モノや情報のあふれる現代だからこそ、不要となったものを活用し、支援の行きわざらない人に届け、正しく使いこなせるようサポートしていただける方々の力が、支えになります。



2017年度、Homedoorを支えてくださったみなさまに聞きました。

Q. どうして、Homedoorを応援するのでしょうか？

Facebookで、知りました。“おっちゃん”的姿がクリアに描写されており、「すぐにでも、自分にできることをしたい」と強く思い、サポートになりました。月額約1,000円からと小さく始められるのも決め手でした。

その後、ボランティアにも参加しています。夜回りに参加させてもらうたびに、問題の大きさと、それに対する自分の無力さを痛感します。

これからも、現場で勉強させてもらいたいながらできるこの幅を広げていきたいと思っています。

会社員(サポート・ボランティア)
山本 優介さん



可憐な女子学生が14歳で嫌悪する情景に遭遇し、それについて疑問に思い、19歳で問題解決のために行動に移し、今300人近く人に救いの手を差し伸べている。そんな事を知って深い感動を覚えました。

まるで浪花のマザーテレサをそのまま実践している川口さんを拝見して、とても温かい気持ちになりました。

自分は「この人生をどう生きるのか」が改めて問われている気がしました。

グロービッシュ・アカデミア株式会社
創業者/相談役(サポート) 坂田 昌鴻さん



「あのおっちゃんたち、なんで家がないんやろ」と思っていた幼少期。海外の貧困問題を研究していた学生時代。そして、問題意識は持っていても日々の仕事に精いっぱいの東京での社会人生活。

自分にはどうしようもできないことだと、どこか距離を感じていました。しかし、Homedoorに出会い、私にもできることがあると知り、それまで感じていた距離がなくなっていました。

今は故郷・大阪から離れていますが、離れた故郷との距離も縮めてくれています。どんな人にも「距離」を縮められる入口が、ここにはあります。

会社員(サポート)
横田 有香さん



社会福祉法人丸紅基金の助成対象事業として、シェルター設営資金の贈呈をきっかけに出会いました。自らの反省も含め、社会が抱える問題に気づきながらも傍観諦観している大人たちのなんと多いこと。

実際の活動にも参加し、若い世代が、周囲を明るく巻き込み、知恵を絞り、大きな課題を一歩ずつ解決しようとしている真摯な姿、斬新な取組みに感激しました。

助成金贈呈を機に、当社のシニア社員も人的支援として活動に参加しています。企業の立場からも応援できることを考え、社内外に働きかけながら若いエネルギーをサポートしていくたいと思っています。

丸紅株式会社
矢萩 典代さん



企業さまとの連携事例① NPO法人二枚目の名刺

NPO法人二枚目の名刺とは、社会人が本業以外の活動をし、2枚目の名刺を持つことを応援する団体です。

プロボノの経験とスキルを活かし、HUBchariポート増設に成功。

「企業で働きながら、経験やスキルを活かしNPOの取組みをサポートしたい」そんなビジネスパーソンの方々7名が集まり、プロジェクトチームを発足。学生インターン3名も交え、3ヵ月間活動していただきました。本プロジェクトでは、HUBchariの新規ポート開拓を行い、新たなポートを開設することができました。

川口理事長のプレゼンに興味を持ち、ホームレスの人の“就労”支援という事業の新しさと、「負のトライングル」から脱出する仕組みが素晴らしく、少しでも役に立ちたいと思い参加しました。

チームメンバーは、意欲が高く、強みも異なり、一緒に活動していくとでも学びが多かったです。飛び込み営業や、学生とのコラボレーションなど、普段できない活動も体験できました。



会社のすぐ近くにHUBchariのポートができたことは、大きな収穫です。管理会社の方がHomedoorの活動に共感し、積極的にビル所有会社と交渉をしてくださいました。

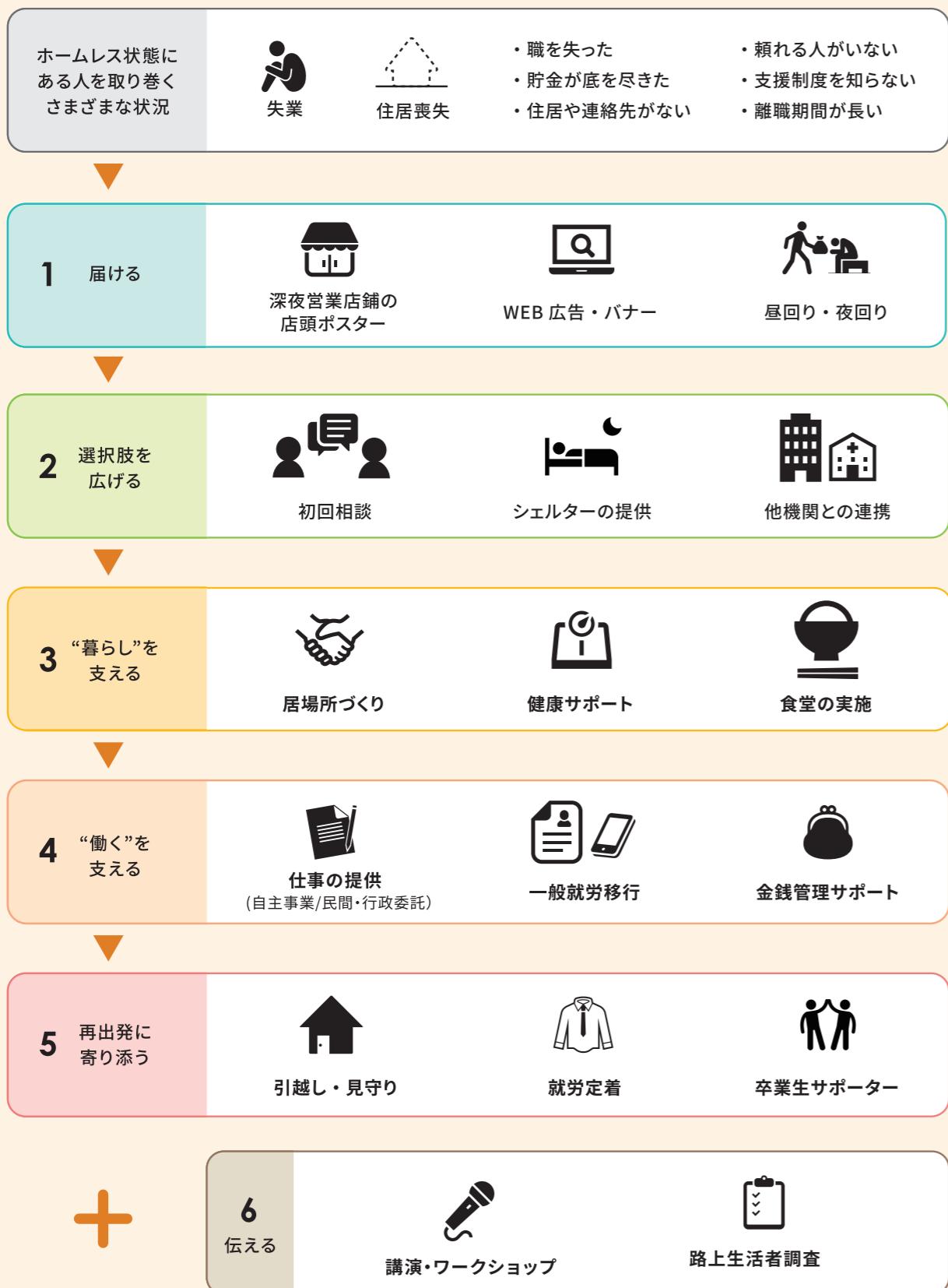
今後も普段から「ポート開設」のアンテナを立てておいて、「これは！」という場所や人脈があれば、すぐに設置をお願いしていきたいです。そのためには、HUBchariの営業ツールを肌身離さず、ですね。

国井 美和さん(住友電気工業株式会社)



Q. どんなことをしている団体なのですか？

「ホームレス状態になりたくないと思ったらならずに済む」
そんな社会をつくるために、6つのチャレンジに取り組みながら
さまざまな選択肢を用意しています。



事務局長に聞く、3つの質問。

Q. 団体の規模や、組織概要を教えてください。

A. 2018年で設立8年目を迎えます。
事務局スタッフ4人、ボランティアを含め約800人で構成されています。

設立 2010年4月(2011年10月NPO法人格取得、2017年1月認定NPO法人格取得)

ビジョン ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくる

スタッフ 事務局スタッフ:5名(2018年3月時点・内2名が役員を兼任)、ボランティア登録者:750名

相談ボランティア:5名、当事者スタッフ:20名

役員 理事長 川口加奈 理事 松本浩美(事務局長と兼任)

理事 竹原啓二(株式会社フューチャー・デザイン・ラボ代表取締役会長)

理事 岩田 真吾(三星テキスタイルグループ代表取締役社長)

監事 杉浦元(エリオスキャピタル株式会社代表取締役社長)



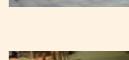
組織の経営戦略を考える役員

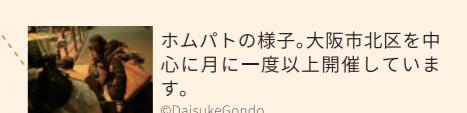
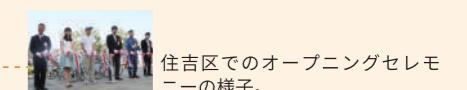
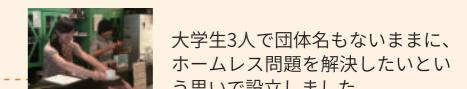


実務面を支えるスタッフ

Q. これまでの道のりを簡単に教えてください。

A. 始まりは、2010年。理事長の川口が19歳のときに立ち上げました。

2010.04	任意団体設立	
2010.08	大阪・釜ヶ崎(西成)でモーニング喫茶を開始	
2011.10	NPO法人格取得	
2012.04	HUBchariオープン	
2012.09	大阪市住吉区とHUBchari協働開始(2013.03まで)	
2013.04	大阪市北区とHUBchari協働開始(2014.03まで)	
2013.11	大阪市北区にてホムパト(夜回り)開始	
2014.04	自転車対策業務を活用した就労支援を開始	
2014.11	深夜営業店舗にてバナー広告の掲載開始	
2015.10	有料職業紹介資格取得	
2016.03	仮認定NPOとして大阪市より認定	
2017.02	アンド食堂開始	
2017.03	認定NPOとして大阪市より認定	
2017.10	大阪ストリートカウントを開催	
2017.12	シェルターの運営を開始	
2018.06	アンドセンター設立	



掲載しているバナー広告とポスター。これを見た若年層からの相談もどんどん増えています。

Q. 2018年度、達成したいチャレンジは？

A. 取り組みたいことはたくさんありますが、まずはこの2つを達成させたいと考えています。

①アンドセンターの設立と運営

2018年5月、Homedoorは5階建ての一棟ビルに移転しました。ここには団らんスペースや相談室のほか、バストイレと家具付きの個室20室が備え付けられています。訪れた人がほっと安堵できるようにとの願いを込めて、『アンドセンター』と名付けました。

これまで、大阪市内でホームレスの人がすぐに住むところを確保したくても、相部屋の施設しかなかったり、利用可能な時間に手続きが間に合わずすぐに利用できなかったりしていました。ホームレスの人の多い大阪市北区に、すぐに利用できる個室型のシェルターを用意することで、安心してゆっくり次のステップへの準備をすることができます。

20室のうち15室は、働きながらアパートへの入居費用を貯めたい人向けの住居として整えていきます。「困ったら、あそこへ行けばなんとかなる」という場所になるよう、当事者のニーズに寄り添い、必要な資源を確保していきます。



②アウトリーチの強化

夜回り活動を開始したのが2013年ですが、近年会える野宿者の数がだんだん少なくなってきたという感じます。

これは決してホームレス問題が解決に向かっている結果ではなく、寝場所から追い出されて移動したり、深夜営業店舗などの路上からは見えにくい場所で過ごしていたりしているからだと考えられます。事実、Homedoorへの相談者は年々増加しています。

東京都では、深夜営業店舗などで寝泊まりをする「住居喪失不安定就労者等」が約4,000人いると推計されており、そのうち7割は不安定労働をしているゆえに長期的に寝泊まりしているという調査結果も出ています。大阪でもこのような調査を実施し、住まいのない困窮者の実態を把握していくたいと思います。



Q. 財政状況はどうなっていますか？

A. 事業規模は拡大していますが、2018年6月完成のアンドセンターの安定運営のためにはさらなる寄付が必要です。

活動計算書 (7期:2017年4月1日～2018年3月31日)

(単位:円)

経常収益	受取寄付金（サポーター会費含む）	21,509,405
	受取助成金	870,497
事業収益	事業収益	7,331,023
	受託事業収益	19,214,700
	その他事業収益	473,539
その他収益	受取利息・雑収益	332
	経常収益計	49,399,496
経常費用	事業費	25,374,560
	人件費	14,054,680
	管理費	1,168,321
	人件費	996,126
	経常費用計	41,593,687
経常外収益		0
経常外費用		227,310
法人税、住民税及び事業税		70,000
当期正味財産増減額		7,508,499
前期繰越正味財産額		49,976,505
次期繰越正味財産額		57,485,004

※繰越金のうち一部はアンドセンターの運営費用に充てる予定です。

貸借対照表 (2018年3月31日現在) (単位:円)

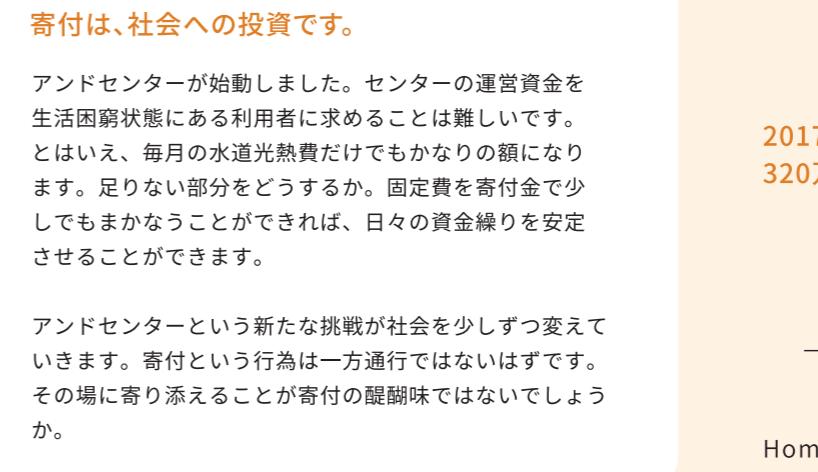
資産の部	流動資産	現金・預金	45,773,439
	売上債権	1,769,987	
	棚卸資産	179,422	
	その他流動資産	3,312,990	
固定資産	建物附属設備	860,000	
	車両運搬具	1,072,982	
	什器備品	75,736	
	建設仮勘定	8,683,200	
	保証金・敷金	936,000	
負債の部	流動負債	未払金	2,130,047
		短期借入金	1,150,000
		預り金	961,305
		未払法人税等	70,000
		未払消費税	867,400
正味財産の部	正味財産	前期繰越正味財産額	49,976,505
		当期正味財産増減額	7,508,499
		正味財産計	57,485,004

監査報告

1.監査の方法の概要
業務執行については、連携などから現在の有効者数、活動内容等の報告を受けました。財産の状況については、損益計算書、貸借対照表の開示および説明を受けました。誠実であることを認めます。

2.監査の結果
特定非営利活動法人 Homedoor の業務報告および決算報告について、2017年4月1日から2018年3月31までの監査を行った結果、客観的資料に基づき問題がございません。なお、業務または財産に関して指摘すべき不正行為または法令、定款違反の大変実は認められません。

2018年6月10日
特定非営利活動法人 Homedoor 監査
松浦 元



Homedoor 顧問税理士
准認定ファンドレイザー
中山 麻衣子

2017年の財務報告から推測すると
320万円が不足します。

約4,160万円



Homedoorでは相談や生活保護の申請同行に関して相談者からお金をいただくことはしていません。相談者が増えれば、その分人件費や交通費がかかり、次年度はアンドセンター設立に伴い、さらに経常費用が膨らむことが予想されます。

2018年6月完成

アンドセンターを特別大公開！

Homedoor事務所に併設されたアンドセンター。
延べ床面積320平米、5階建のビル。この建物の秘密に迫ります！

Q. アンドセンターってどんな場所？

A. ホームレス状態になった人に、「あそこへ行けばなんとかなる！」という機能を提供するためにつくられた場所です。

住まいのない人向けに20人分の個室を用意しているほか、シャワー室に団らんスペース、キッチンやランドリースペースも用意しています。食料や衣類をお渡しすることもできます。

Q. どうして家がない人が生まれるの？

A. 収入や貯金がなくなり、家賃が払えなくなったときに住まいを失います。住み込みの仕事をしていて、仕事がなくなると同時に住んでいた寮を出ないといけなくなった人もいます。家族の介護や急な倒産など、本人だけの責任とは言えないこともあります。

再び住まいを得るには、10万円近い初期費用を貯めなければならず、自力で生活を立て直すのは非常に困難です。

Q. 家がない時に使える公的な制度はないの？

A. 生活保護を利用しアパートで暮らすことは可能です。しかし、大阪市内では、家のない人が相談に行くとまずは施設入所を勧められます。住まいがないというだけで、「自己管理ができないのでは」と思われるてしまうためです。

行政の施設は、相部屋のものがほとんどです。「知らない人との集団生活を強いられるくらいなら、施設に入らず、がんばって野宿を続けよう」とあきらめてしまう人も少なくありません。

アンドセンターは、制度の狭間にいる人たちのために、本当に必要な機能を備え、新たな支援モデルの構築を目指します。

私も応援しています！



数年前に講演を聞く機会がありました。「なぜHomedoorの取り組みを始めたのか？」という質問に「知った以上は無関心ではいられない」とお答えしていたことが、とても新鮮で刺激的でした。

「自分は多くのことを知っているが、無関心になっていることが多いのではないだろうか？」
そう自分に問いかけられている気がしました。

知った以上は無関心ではなく、なんらかの関心を持つ。シンプルで素晴らしい哲学だと思います。

新しい挑戦となるアンドセンターに少しでも多くの人が関心を持ち、関わってもらえるよう応援ていきます。

ヤフー株式会社 取締役会長
Z コーポレーション株式会社 代表取締役
宮坂 学さん



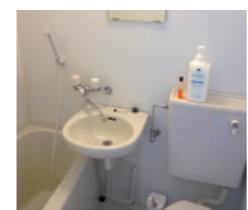
ベッドやシャワー完備の個室。
ゆっくり自分だけの時間を過ごせます。



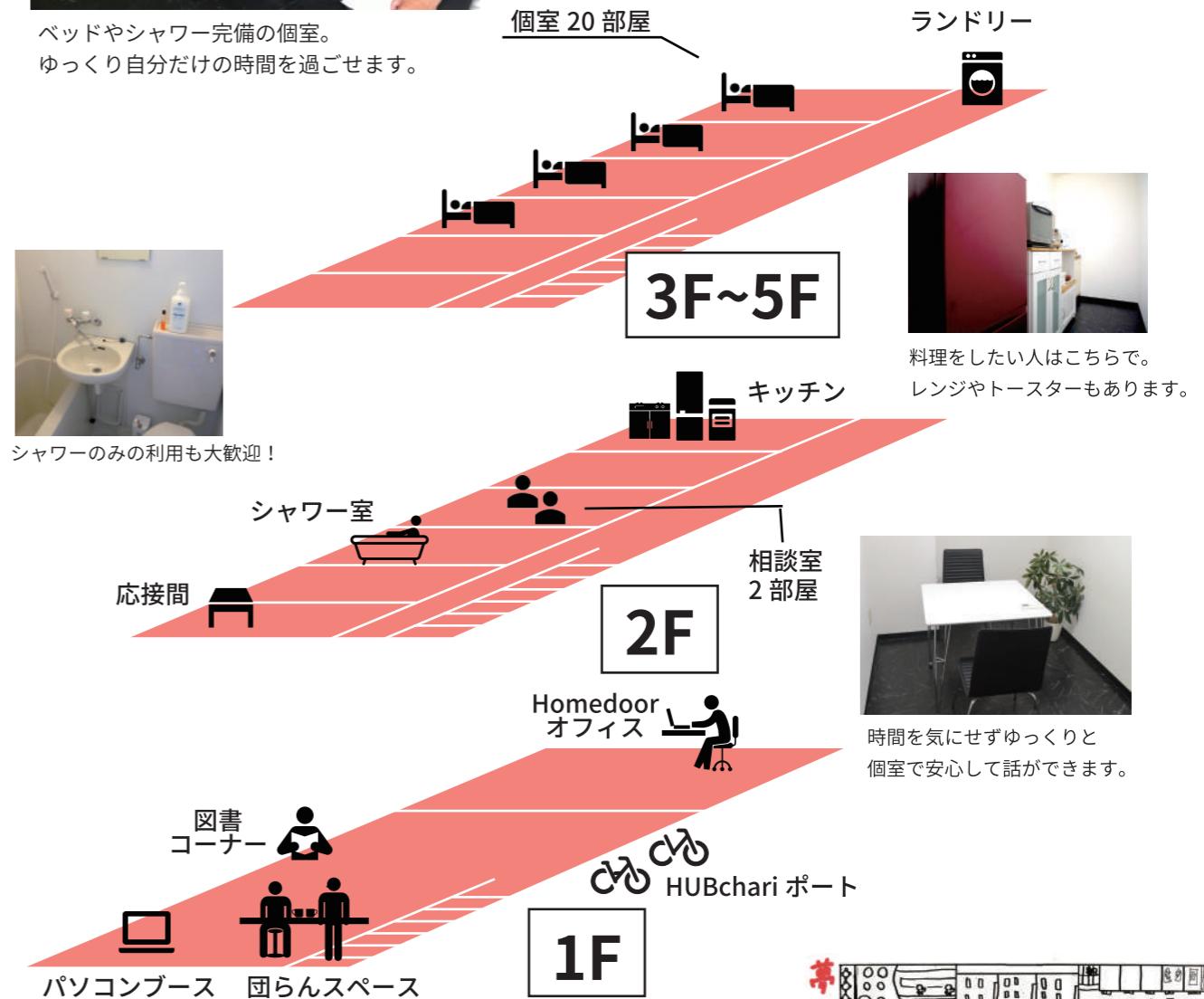
好きな時間に自由に洗濯可能！衣服も提供しているので、洗い替えの心配も無用。



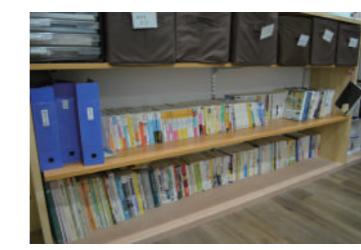
最大20人程度が入る応接間。
企業や行政機関の方々との打ち合わせや会議もここで行います。



シャワーのみの利用も大歓迎！



思い思いに過ごせる場所。おしゃべりしたり、ご飯を食べたり、音楽を聴いたりできます。



「荷物が重いから」と野宿していた人が本を寄付してくれて始まったHomedoor文庫。いつの間にかあらゆるジャンルの本が揃っています。貸し出しましもしています。



川口が高校生の頃に書いた「夢の施設の間取り図」。10年と少しの時を経て、アンドセンターが生まれました。

今すぐできる応援方法は2つあります。

①サポーター会員になる(継続寄付)

1日35円からHomedoarを継続的にサポートできます。サポーター会員のみなさまには会員カードなどのサポーターセットをお送りします。

▶クレジットカード決済で

ホームページから簡単に手続きできます。



www.homedoor.org/besupporters

▶口座振替で

お電話かメールをいただければ、口座振替申込書をお送りします。

06-6147-7018(平日11時～18時) info@homedoor.org

②好きな額で寄付をする(単発寄付)

▶クレジットカード決済で

ホームページから簡単に手続きできます。



www.homedoor.org/donatedetail

▶銀行振込で

下記口座にお振込ください。

三井住友銀行 梅田支店(127)普通8928985

トクテイヒエイリカツドウホウジン ホームドア

銀行振込の特性上、使途を確認できないため、お手数ですが下記フォームにてご連絡ください。

www.homedoor.org/donatedetail



3,240円で

専門相談員によるカウンセリングをひとりに提供できます。



5,400円で

アンドセンターでひとりが一晩ゆっくり休むことができます。



10,800円で

夜回りを2回実施し、100名以上に食事を提供できます。

ホームレス問題解決のためのご寄付は多くの社会問題解決への糸口となります。

まずは、1日35円から、最初の一歩を踏み出してみませんか？

2018年度、私たちはアンドセンターを開設し、ますます大きな挑戦をしていきます。サポーターとして、これからも私たちのチャレンジ、応援してください！



理事長
川口 加奈

寄付は「つくりたい未来」
への投資です。

Homedoarは認定NPO法人です。

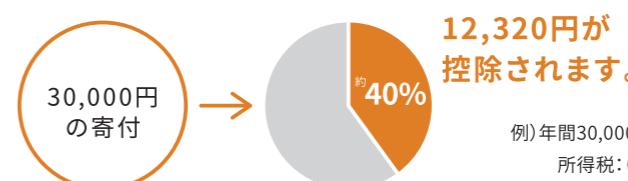
これはNPOのうち「一定の水準を満たしている」と所轄庁に認められた法人のことです。認定NPO法人に対する寄付は「寄付金控除(税額控除)」の対象となり、税制上の優遇措置が講じられます。

確定申告によって寄付金控除を受けることができ、寄付額の約40%が所得税と住民税から控除されます。

税金は、納める額も使いみちも、国や地方自治体によって決められています。寄付は、みなさんが自身の共感や思いにもとづき、寄付先や金額を決められます。

どんな社会になってほしいかを、自分で選ぶことができるのです。

ぜひ、やり直しが許される社会を一緒につくっていきましょう。



例) 年間30,000円の寄付をした場合、12,320円が控除となります。

所得税: $(30,000円 - 2,000円) \times 40\% = 11,200円$

住民税: $(30,000円 - 2,000円) \times 4\% = 1,120円$

控除を受けるための3つのステップ

①領収書の受領 領収書をお送りしますので、大切に保管をお願いします。(毎年12月31日締め、翌年1～2月に郵送)

②書類に添付 確定申告の書類に領収書を添付してください。

③確定申告 管轄の税務署で確定申告をしてください。(年末調整では控除できませんのでご注意ください)

誰もが何度も
やり直せる社会をつくりたい。
実現するためには、
あなたの力が必要です。

事務所に来る、みなさんに聞いてみました。

Q.

Home door に出会って、

何が変わりましたか？

絶対に今の生活を手放したくないって思っています。



宇野さん
(40代)

絶対に今の生活を手放したくないって思っています。

ご飯を食べられて、屋根があるところで生活できるようになりました。働いて収入を得てやりたいことができるようになりました、将来に希望が持てるようになりました。



宇野さん
(40代)

人間性が変わった気がする。



古久保さん
(60代)

よく喋るようになって、明るくなったと思う。心配してくれる人がいてうれしい。

今まで思っていたことを言えずに隠していたけど、なんでも言えるようになった。

自分でとつての「命綱」ができた。

受け入れてくれる場所があって、本当にうれしい。

ここで働くようになつて、食料は困らなくなりました。

最初の給料で定食を食べました。

ご飯がすごく温かったのをよく覚えています。

生活がしやすくなつた。

あきらめていた年金をもらえるようになつた。家を借りられたので、寒い思いをして野宿をしなくてよくなつた。



関口さん
(60代)



朝倉さん
(60代)



伊藤さん
(50代)

家に住むことができるようになって、人の目を気にしなくてよくなつた。

寝たいときに寝れるし、好きなときにお風呂を入れる。ゆっくり寝ていても誰にも文句言われない。



松岡さん
(40代)

相談して2日で家に入ることができます。

半年に渡って野宿していたときは自分が情けなくて惨めだったけどやっとゼロの状態に戻れたので、イチから立て直していきたいです。



Nさん
(60代)



岡さん
(50代)



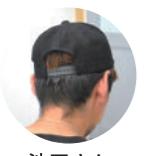
柏谷さん
(60代)

スタッフの方からの

優しいお声掛けにとても救われました。

色々なトラブルが重なり困窮していたときに一日だけお世話になりました。

今僕が心身共に元気で過ごせるのは、そのお声掛けのおかげだと思います。



池田さん
(30代)



Tさん
(40代)